



TITLE:

統計量の分布から母集団分布がどこまでわかるか (統計理論における確率分布の特徴づけ)

AUTHOR(S):

清水, 良一

CITATION:

清水, 良一. 統計量の分布から母集団分布がどこまでわかるか (統計理論における確率分布の特徴づけ). 数理解析研究所講究録 1974, 223: 1-6

ISSUE DATE:

1974-11

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/105352>

RIGHT:

統計量の分布から母集団分布がどこまでわかるか

統数研 清水 良一

例 1. \mathcal{P} は、すべてのモーメントと持ち、しかも、これらのモーメントによって一意的に定まるような分布の族とする。
 X_1, \dots, X_n と $F \in \mathcal{P}$ からの標本とする。 F のモーメントは $L = a_1 X_1 + \dots + a_n X_n$, (a_j は任意の正の数) のモーメントで表せるから、 F は統計量 L の分布から完全に定まる。

例 2. X_0, X_1, \dots, X_n が $N(0, \sigma^2)$ からの標本なら、

$$t = \sqrt{n} X_0 / \sqrt{\sum_{i=1}^n X_i^2}$$

は d.f. n の t 分布に従う。 1 か 1、逆に、統計量 t の分布が t 分布であるからといって、 X の分布が $N(0, \sigma^2)$ とはいえない。 密度関数、

$$\frac{\sqrt{2}}{\pi \sigma \left[1 + \left(\frac{x}{\sigma} \right)^4 \right]}$$

あるいは、

$$\frac{\sqrt{2} x^2}{\sigma^3 \left[1 + \left(\frac{x}{\sigma} \right)^4 \right]}$$

ともつ分布かも知れない.

以下、分布族 $\{f(x; \theta)\}$ の分布からの標本 X_1, \dots, X_n にもとづく統計量 T で、

(i) T の分布が θ に無関係、で、

(ii) T の分布から $f(x)$ が一意に定まる、

よりなもと求める.

A. $\theta = (\mu, \sigma^2)$, $f(x, \theta) = \frac{1}{\sigma} f\left(\frac{x-\mu}{\sigma}\right)$ とする.

$Y_k = (X_k - \bar{X})/S$, $k=1, \dots, n$ とおくと, $T = (Y_1, \dots, Y_n)$ が (i) と満足することは明らか. 適当な条件のもとで (ii) もいえる.

B. $\theta = (\theta_1, \dots, \theta_k, \underbrace{0, \dots, 0}_{s-k})$, $f(x; \theta) = f(x - \theta)$

$x = (x_1, \dots, x_s)$ が与えられたとき, $x^* = (x_1, \dots, x_k, 0, \dots, 0)$

とおく. 統計量 $T = (x_1 - x_3^*, x_2 - x_3^*)$ が与え

たような条件下で (i), (ii) と満足する.

証明. (i) は明らか. $f(x)$ の ch.f. を $\varphi(t)$ とする.

$(x_1 - x_3^*) - (x_2 - x_3^*) = x_1 - x_2$ により, T の分布から $|\varphi(t)|^2$ が一意に定まる. T の ch.f. を $\psi(s, t)$ とすると,

$$\begin{aligned}\psi(s, t) &= E(e^{i(x_1 - x_3^*)s' + i(x_2 - x_3^*)t'}) \\ &= \varphi(s) \varphi(t) \overline{\varphi(s^* + t^*)}.\end{aligned}$$

そこで $A(t) = \arg \varphi(t)$, $S(s, t) = \arg \psi(s, t)$

とおくと,

$$S(s, t) = A(s) + A(t) - A(s^* + t^*).$$

homogeneous equation

$$A(s) + A(t) - A(s^* + t^*) = 0$$

は $t = 0$ において $A(s) = A(s^*)$ とおけるから,

$$A(s^*) + A(t^*) = A(s^* + t^*)$$

これより,

$$A(s) = A(s^*) = \sum_{j=1}^k c_j s_j.$$

かくして, $s = 0$ の近傍で, $\varphi(s)$ は $\psi(s, t)$ から

factor $e^{i \sum c_j s_j}$ と除いて一意的に定まる.

C.

Aにおいて, $n \geq 9$ とする. 統計量

$$\begin{aligned}T = & \left(\log \left| \frac{Y_2 - Y_1}{Y_2 - Y_7} \right|, \log \left| \frac{Y_2 - Y_1}{Y_2 - Y_7} \right|, \log \left| \frac{Y_6 - Y_7}{Y_7 - Y_7} \right|, \log \left| \frac{Y_7 - Y_4}{Y_7 - Y_7} \right|, \text{sign}(Y_2 - Y_1), \text{sign}(Y_2 - Y_1), \right. \\ & \left. \text{sign}(Y_6 - Y_4), \text{sign}(Y_5 - Y_4) \right)\end{aligned}$$

が条件 (i), (ii) を満たす.

証明. f は (Z_1, Z_2) , $Z_1 = X_3 - X_1$, $Z_2 = X_2 - X_1$ の分布から定まる. この分布は, scale family $\{\sigma^{-2} g(x/\sigma)\}$ に属する. $(Z_{11}, Z_{12}), (Z_{21}, Z_{22}), (Z_{31}, Z_{32})$ とこの分布からの標本として,

$$V_j = (\log |Z_{j1}|, \log |Z_{j2}|, \text{sign } Z_{j1}, \text{sign } Z_{j2}), j=1, 2, 3$$

と作ると, V_1, V_2, V_3 は, 4変量の location family

$$\{h(x-\theta); \theta = (\log \sigma, \log \sigma, 0, 0)\}$$

からの標本である.

よって, B から, $(V_1 - V_3^*, V_2 - V_3^*) (= T)$

の分布から h が, (T) が g が, (T) が f が一意に定まる.

D. $Y_k, k=1, \dots, n$ と A のやり方とすると, (Y_1, \dots, Y_n)

は, $Y_1 + \dots + Y_n = 0$, $Y_1^2 + \dots + Y_n^2 = 1$ 上の分布になる.

正規分布から (Y_1, \dots, Y_n) の分布は一様分布に, 逆に (Y_1, \dots, Y_n) の分布が一様から X の分布は正規分布である. さらに

に (Y_1, \dots, Y_n) の分布が連続の密度関数 g ともつとする.

(つぎのことがいえる:)

$n \geq 6$ とし,

$$Z_1 = (y_1, y_2, y_3, y_4, y_5, y_6, \dots, y_n),$$

$$Z_2 = (y_1, y_2, y_3, y_1, y_2, y_3, \dots, y_n),$$

$$Z_3 = (y_4, y_5, y_6, y_4, y_5, y_6, \dots, y_n),$$

$$\text{ただし, } y_1 + y_2 + y_3 = y_4 + y_5 + y_6,$$

$$y_1^2 + y_2^2 + y_3^2 = y_4^2 + y_5^2 + y_6^2$$

$$(y_1, y_2, y_3) \neq (y_4, y_5, y_6),$$

とみたとき, z_1, z_2, z_3 における g の値が等しいから,

X の分布は正規分布である.

証明. X の分布の確率密度を f とすると,

$$g(y_1, \dots, y_n) = C \cdot \int_{-\infty}^{\infty} dt \int_0^{\infty} s^{n-2} \cdot f(t+sy_1) \cdots f(t+sy_n) ds$$

と書ける. 上の条件から,

$$\begin{aligned} \int_{-\infty}^{\infty} dt \int_0^{\infty} s^{n-2} [f(t+sy_1) f(t+sy_2) \cdot f(t+sy_3) \\ - f(t+sy_4) \cdot f(t+sy_5) \cdot f(t+sy_6)] ds = 0. \end{aligned}$$

いま $f(t_0) > 0$ とすると, t_0 の近隣の t , 0 附近

に s について,

$$\begin{aligned} f(t+sy_1) \cdot f(t+sy_2) \cdot f(t+sy_3) \\ = f(t+sy_4) \cdot f(t+sy_5) \cdot f(t+sy_6) \end{aligned}$$

が成り立つことに注意.

$$\xi(t) = \log f(t_0 + t)$$

とおくと,

$$\sum_1^3 \xi(t+sy_j) - \sum_4^6 \xi(t+sy_j) = 0.$$

6

これを解いて,

$$\xi(t) = \text{二次多項式}$$

が得られる.

一般に、 ξ_j が連続なら、

$$\sum_{j=1}^n \xi_j(t + s y_j) = 0$$

から $\xi_j(t)$ が多項式であることが導かれ、ここで述べた結果は、 X_1, \dots, X_n が同じ分布に従うという仮定が成り立つ。

以上、Linnik, Zinger による仕事の紹介である。